

国際交流基金事業紹介
こくさいこうりゅうきん じぎょうしやうかい日本に滞在して教材やカリキュラムを開発する
にほん たいざい きょうざい かいぱつ

「日本語教育フェローシップ」(1)

にほんごきょういく

日本語国際センター制作事業課

にほんごこくさいせいさくじぎょうか

国際交流基金日本語国際センターの公募プログラムの一つに「日本語教育フェローシップ」があります。

『日本語教育通信』は、今号と次号の2回にわたり、このフェローシップについて紹介いたします。まず、

今号ではフェローシップの概要と平成15年度採用プロジェクトのリストを掲載し、次号で、実際にフェローシップを受けられた方々の声やその成果物についてお知らせする予定です。

「日本語教育フェローシップ」プログラムは、海外の日本語教育・研究機関等が、自国の日本語教育の実状に則して、日本語教材の開発や、具体的なテーマ・教材に基づいた教授法・カリキュラム開発などを行うにあたり日本で研究・調査の必要がある場合に、その制作を担当する専門家をフェローとして日本に招へいするものです。1機関あたり1名または2名のフェローが、あらかじめ定めた期間日本に滞在します。平成元年（1989年）から14年（2002年）度末までの間に、140件を超えるプロジェクトを支援してきました。フェローの方々は、フェローシップ期間終了後自国に帰って、素晴らしい教材やその地域に合ったカリキュラムを完成させています。

このプログラムに採用されると、渡航費用、滞在費及びその他の諸手当が支給されます。また、フェローの希望によって、宿泊室、図書館、研究室など当センター施設の利用や、日本語教育専門家の助言といった支援を受けることができます。

申請にあたって注意しなければならないことは、申請者はフェロー個人ではなく、そのプロジェクトを実施する機関だということです。また、プロジェクト自体に関しても、いくつかの要件を満たしている必要があります。たとえば、フェローシップ終了後、原則として2年以内にプロジェクトの成果が出版される可能性が高いこと、などがあります。（詳しくは、「日本語教育フェローシッププログラム申請要領」http://www.jpfe.go.jp/about/jprogram_j/sinseisho/3/NC-EF.htmlをご覧ください。）

申請いただいたプロジェクトの中からどれを採用するかは、審査で決定します。審査は内容面審査と政策面審査とがありますが、そのうち大きなウエイトを占めるのは内容面審査で、複数の日本語教育専門家が、様々な観点からそのプロジェクトの内容を検討します。現在特に重視しているのは、プロジェクトの完遂可能性、成果物がその国や地域に与える影響、そして来日の必要性です。たとえば、その国や地域の日本語教育に重要な影響を及ぼすような教科書の制作や、教授法・カリキュラムなどの教育基準策定で、さらにプロジェクト全体の中で来日の必要性がはっきりしているものは、比較的優先度が高いと言えるでしょう。

近年の申請プロジェクトの傾向として、コミュニケーションを重視した教材、通訳者養成用教材、異文化理解を目的とした教材制作のプロジェクトが多くなっています。また、マルチメディア教材など数年前までは予想されていなかったようなものもあります。

これまで述べてきたとおり、このプログラムの目的は教材制作やカリキュラム開発の支援ですが、フェローの方々にとっては、滞日期間中に日本国内の日本語教育専門家や同時期に来日する他のフェローと交流できる絶好の機会でもあります。この機会を大いに活用して、国境を越えたつながりという財産を得ていただくことも期待しています。

今回の特集で、日本語教育フェローシッププログラムに関心を持っていただけたら幸いです。申請をご希望の際は、各国にある日本の在外公館または国際交流基金の海外事務所にお問い合わせください。また、内容に関するお問い合わせは、日本語国際センター制作事業課へお寄せください。

連絡先：日本語国際センター制作事業課

TEL +81-48-834-1183 FAX +81-48-831-7846 E-mail. seisaku@jpf.go.jp

平成15年(2003年)度 採用リスト

国名(滞日月数)	申請機関名	プロジェクト名/訪日予定者氏名(英語表記)	日本側協力者氏名
中国 (6ヶ月)	東北師範大学外国語学院	中国語・日本語の同時通訳の方法と実践 徐 氷 (XU, Bing)	金丸 邦三 (大東文化大学教授)
中国 (2ヶ月)	課程教材研究所	義務教育課程標準実験教科書 日語(九年級上下冊) 張 敏 (ZHANG, Min)、劉 粉麗 (LIU, Fen Li)	加納 陸人 (文教大学教授)
中国 (6ヶ月)	湖南大学	『日本語初級総合教程』に基づく教授法とカリキュラムの開発・研究 李 妲莉 (LI Dali)	案野 香子 (静岡大学留学生センター助教)
中国 (2ヶ月)	北京大学	中国大学日本語専攻学生用『総合日語』作成プロジェクト 郭 勝華 (GUO, Sheng hua)、 孫 佳音 (SUN, Jiayin)	守屋 三千代 (創価大学助教)
中国 (2ヶ月)	上海交通大学	実用通訳教材の開発 計 鋼 (JI, Gang)、張 真 (ZHANG, Zhen)	相原 茂 (お茶の水女子大学教授)
インドネシア (2ヶ月)	インドネシア教育大学	日本語学教材開発 スジアント (SUDJIANTO)、 アフマッド ダヒディ (AHMAD Dahidi)	久保田 美子 (センター専任講師)
スリランカ (3ヶ月)	ミツシ教育センター	初級教材作成 パタマセーナ M.T. マドゥ ランカニ (PADMASENA M.T. Madhu Ranganie)	島田 徳子 (センター専任講師)
ニュージーランド (6ヶ月)	ニュージーランド 教育省教員養成校協議会	「教科書を作ろう」を使ったニュージーランドの 中学・高校のための教科書作成プロジェクト ショート, ジェニファー (SHORT, Jennifer)	古川 嘉子 (センター専任講師)
ブラジル (2ヶ月)	ブラジリア大学	ブラジルにおける「日本文化」教育の教授法・ プログラム開発と副読本編纂 根川 幸男 (NEGAWA, Sachio)	細川 英雄 (早稲田大学日本語研究教育センター教授)
アイルランド (2ヶ月)	アイルランド言語学 研究所	日本語教材開発プロジェクト ツイママン, ウルスラ (ZIMMERMANN, Ursula)	鎌田 修 (京都外国語大学教授)
ドイツ (4ヶ月)	ベルリン自由大学 東アジア研究所日本学科	「プロソディー教育の確立をめざして」教材作成・ シラバス構築-発音・発話指導を中心に- 山田ボヒネック 頼子 (YAMADA-BOCHYNEK, Yoriko)	上野 田鶴子 (東京女子大学教授) 他、計4名
フィンランド (1ヶ月)	フィンランドセンター	デジタル化された日本語フィンランド語辞書 ニエメラ, ペトリ ミカエル (NIEMERA, Petri Mikael)、クーシッコ, ピルヨ・リーッタ (KUUSIKKO, Pirjo-Riitta)	佐久間 淳一(名古屋大学助教) 他、計3名